



青少年作文コンクール入賞者

心に残った出来事や、私を変えた一言など、自由なテーマで作文を募集したところ、644人から応募があり、次の皆さんが入賞しました（敬称略）。

問 生涯学習課 (☎62-1036)



家族への手紙コンクール入賞者

日頃、面と向かうとなかなかうまく伝えられない思いや愛しい気持ちなどがつづられた手紙が900通寄せられ、次の皆さんが入賞しました（敬称略）。

問 生涯学習課 (☎62-1036)

- 【最優秀賞】 1人
「自分らしくやりやあでできる」
古瀬渚 (雁が音中3年)
- 【優秀賞】 10人
「ぼくのじゅんい」
和田澤音 (富士松南小2年)
- 「私を変えた友達の一言」
井崎沙和 (日高小5年)
- 「一人一人の意見は大事に」
神野桃衣 (東刈谷小5年)
- 「本が好き」
坂田千桜 (富士松東小6年)
- 「毎日やっていること」
江波蒼和 (刈谷東中2年)
- 「日常を共に」
丹羽結菜 (刈谷東中2年)
- 「続けること」
高橋あかり (依佐美中2年)
- 「あの手」
久保希 (刈谷南中3年)
- 「絶滅危惧種」
伊藤ころ (刈谷東中3年)
- 「私を変えた出来事」
豊原俊哉 (シエイトクト高等学園)

- 【最優秀賞】 1人
「家族への感謝」
二村健司 (シエイトクト高等学園)
- 【優秀賞】 10人
「グランマからの絵手紙」
江角颯真 (住吉小2年)
- 「家族への手紙」
鈴置空良 (富士松南小4年)
- 「カッコイイ名前をありがとう」
岡部純陽 (富士松南小5年)
- 「世界一のお父さんへ」
秋山流星 (衣浦小6年)
- 「ゆっちゃんへ」
畑中未来 (住吉小6年)
- 「まほつこの言葉」
高橋采里 (刈谷東中1年)
- 「今までの感謝とこれからを」
中野田有希 (刈谷東中2年)
- 「お兄ちゃんへ」
三浦郁琉 (刈谷東中2年)
- 「大好きな万里菜へ」
小林奈々 (刈谷東中3年)
- 「キャベツのごま味噌炒め」
山本陽子 (一般)

最優秀作品

「自分らしくやりやあでできる」

「生徒会に立候補してみませんか。」
私が中学一年の時、担任の先生がそう声をかけてくださった。私は小学校で児童会、中学二年の前期で級長を経験したことがあったので興味はあった。しかし、小学校と中学校ではプレッシャーの大きさが違う。また級長と生徒会では規模が違いすぎて勇気が出ず、その時は断った。というのはいやつだと言われたり思われたりしたらいやだな。どうしよう。そんな小さな理由だった。

そんな時に、ふと目に入った小学校の卒業記念品の写真立て。何気なく写真を見ていたら中が少し膨らんでいることに気がついた。急いで中を確認してみると、そこには一通の手紙が入っていた。それは六年の時の担任の先生からだった。そこには、

「自分らしくやりやあでできる」
と書かれていた。私はそれを読んでほっとした。そう、落選したって、それは悪いことでも恥ずかしいことでもない。私が私らしく最後までやりきればそれでいいんだ。だから、一回チャレンジしてみてもいいのではないか。

そう思えた矢先に、先生がもう一度声をかけてくださった。まだ少しの迷いはあったが、ここで挑戦しなかったら自分らしくないと思ひ、生徒会役員に立候補することを決めた。

私が立候補すると決めたのは、立候補届け出用紙の提出締め切りの二日前。今日を含め三日間で推薦責任者をやってくれる人や、立候補届け出用紙に名前を書いてくれる推薦者を十名以上探さなければならぬ。焦った。しかし、急な頼み事にも関わ

最優秀作品

「家族への感謝」

高校を卒業し社会人となった今、私は両親に対し感謝の気持ちでいっぱいです。

まだやんちゃで考えることが苦手だった自分は両親に迷惑をかけてばかりでした。学校の成績は悪い、宿題はやらない、友達と遊んでばかり。それでも両親は落ちこぼれの自分を優しく見守ってくれました。

中学、高校と進学するにつれて厳しくなる部活動。辛くて学校に行くことを恐れていた自分を真正面から支えてくれたのは母でした。「辛いのはお前だけじゃない。ましてやお前より辛い人なんてこの世に数えきれない程いるんだ。」この言葉は未だに忘れられません。もしあの時辛い事から逃げていたら、一生だらしない生活を送っていたと思います。

中学、高校は母だけでなく兄にも助けられました。部活動で疲れている自分にご飯を奢ってくれたり、仕事が無い日には気晴らしにドライブに連れてってくれたりしました。その時はただ当たり前のようだったと思っていましたが今となっては考えてみると、本当にありがたい存在です。

古瀬 渚

「自分らしくやりやあでできる」

推薦責任者を引き受けてくれた頼もしい友達もいたし、推薦者も私が頼む前から「私も書くよ。」と言ってくれる友達もいた。また、違うクラスなのに、すれ違った時に「頑張れ。」と声をかけてくれる友達もいた。この時は、色々な人に支えられて今の自分があることに気づくことができました。

いよいよ選挙当日。今まで一番緊張した瞬間だった。何をどんな風にしゃべったのかあまり覚えていない。しかし、演説が終わった後のやり切った感覚は鮮明に覚えている。そして土日は皆さん月曜日、選挙の結果が報告された。私は生徒会役員になることができた。そして私は、今までに感じたことのない達成感を味わうことができた。

私は生徒会に立候補したことで、二つ学んだことがある。一つ目は、周りにいる様々な人の支えがあって今の自分という人間ができてきていることだ。なぜなら、たくさんの人の協力がなかったらここまでやり続けることはできなかったから。二つ目は、いつでも自分らしく色々なことに挑戦することの大切さだ。今回、小学校の時の担任の先生の言葉が私にそれを気づかせてくれた。

先のことなんて誰にも分からない。だからそれを怖がる必要などないということ。今を今実感することができた。自分らしくやりやあでできる！



二村 健司

就職してからは疲れが溜まり、朝の通勤時によく最寄り駅まで父に車で送ってもらいます。普段口喧嘩ばかりの父ですが、その時は優しさを感じます。

今自分は家族に対して何の恩返しもできていませんが、いつか「ありがとう」の一言でも添えて恩返しができたらいいなと思います。

